

平成23年度 第2回磐田市放課後子どもプラン推進事業運営委員会記録

日 時：平成24年3月13日（火） 午後7時～午後8時

場 所：磐田市役所西庁舎 303会議室

出席者：委員12人中11人出席

飯田 稔委員長、加藤ゆう子副委員長、齊藤実良委員、寺田義昭委員

匂坂 滋委員、鳥居和子委員、鈴木哲也委員、山口智子委員、西岡都子委員

西尾さとみ委員、鈴木 薫委員

事務局：教育総務課 高梨参事、水野課長補佐、今井主査

学校教育課 伊藤容子

会議の概要

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議 事

以下(1)から(3)について、事務局から説明後、質疑・応答、意見交換を行い、放課後児童クラブおよび放課後子ども教室の事業計画、連携等について確認した。

【説明の要旨】

- (1) 放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の事業報告・事業計画について

放課後児童クラブ

平成23年度事業報告として、23小学校区28箇所のクラブを開所した。受入児童数の平均は902人で、夏休みの利用者が多い。運営は、1クラブのみ地区社協に委託、その他は市の直営である。市の臨時職員は76人で、年間を通じ必要な研修を行っている。また、各種団体、個人の協力のもと、夏休みを中心に各種講座を開催している。

平成24年度事業計画として、富士見小児童クラブを2つに分割するが、その他の運営については、23年度と大きな変更はない。

放課後子ども教室

平成23年度事業報告として、福田地区、竜洋地区、豊田地区の6つの小学校区で放課後子ども教室を開催している。運営方法は講座方式、教室方式、活動方式と各地区で異なっているが、いずれの地区も参加率は高い。

平成24年度事業計画として、平成23年度と同様6つの小学校区で教室を開催するが、活動期間については、一部教室で、前倒しで実施する予定である。

(2) 放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の連携（「磐田市放課後子どもプラン」）について

子ども・子育て新プランにおいて、放課後児童クラブについて検討されており、関連した法案の提出が予定されている。また、放課後児童クラブと放課後子ども教室の関係については、両事業とも放課後などに安全で、安心して、健やかに育まれるよう、活動場所を確保する点では共通しているが、役割や活動内容、課題に違いがあることから、将来的には一体的に実施していくことを目指しつつ、当面はそれぞれの質・量の充実を図ることが急務であるとしている。

本市における両事業の関係は、磐田市放課後子どもプランの中で、情報交換と連携を図っていくこととしているが、平成24年度においても、平成23年度のプランを継続し、それぞれの地域の実情にあった連携をはかっていきたい。

(3) 磐田市放課後子どもプラン推進事業運営委員会の運営について

平成24年度の放課後児童クラブと放課後子ども教室の運営は、前年度を継続する中で、放課後子供プランについても、引き続き両事業の連携を推進することから、当該運営委員会の開催については、原則として年度末に事業報告・事業計画等を検討する委員会を開催し、その他については、開催の必要が生じたときに、委員長が召集することとしたい。

【主な質疑応答】

Q： 放課後子ども教室について、実施地区の拡大は考えていないのか。

A： 新たな放課後子ども教室設置の要望はない。現在実施している教室の質の向上を図っていきたい。

Q： 子ども・子育て新システムで、放課後児童クラブにおいて4年生以上も対象とするねらいと理由は。

A： 子ども・子育て新システムにおける放課後児童クラブについては、子育て支援という側面が大きい。安心して働くためにも、4年生以上の子どもが放課後等を安全に過ごせる場所を確保したいとの保護者の希望が多いとの認識があるものと考えられる。

Q： 民間放課後児童クラブの状況は。

A： 市内3ヶ所の保育園において実施しているが、指導員の確保は保育園で対応している。

【主な意見交換】

教室とクラブが同じ場所であることから、児童クラブの子に参加の働きかけをしたところ、例年より参加者が増えた。

すべての児童クラブの子が教室に参加することが理想だが、参加を強制できない。教室のある日は、クラブとしても日課を調整し、参加しやすい環境を整えている。教室参加者は大変楽しそうで、その楽しかった思いを生かしたいと心掛けている。

夏休みは、放課後児童クラブの利用者が多く、また、利用時間も長くなることから、講師等を派遣していただくとありがたい。

子ども教室が学習中心の活動である場合、児童クラブとは、活動の中味の連携はできない。

子ども教室の一部の時間を利用して、児童クラブ全員が参加し、教室の子と一緒に活動している。子どもたちの様子を見ると大変うれしそうである。

地元の民生・児童委員の方が児童クラブを訪問した際、子どもたちと話し合いの場を持った。子どもらしい質問に答える民生・児童委員と子どもたちの姿は大変和やかな雰囲気であり、子ども教室と児童クラブの連携だけではなく、地域との連携についても、その重要性和可能性を感じることができた。

第1回目の委員会において、それぞれの地域においてできる連携について考えてほしいとお願いしたが、その結果、少しではあるが前に出た感じがする。お互いに話し合いを行い、問題点を把握すれば、前に進めることができる。小さなことでも重ねていくことで、両事業の連携が進むのではないかと思う。せっかく小さくても前に出ることができたのだから、今後も少しでも進めていただきたい。

4 閉 会